

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0870300902		
法人名	株式会社 マツウラ		
事業所名	グループホーム きらめき		
所在地	茨城県土浦市小松2-9-12 (電話) 029-824-7810		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年7月21日

【情報提供票より】 (平成21年2月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月2日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤 20人, 非常勤 0人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,500+実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年2月9日現在)

利用者人数	27 名	男性 5 名	女性 22 名
要介護1	6	要介護2	10
要介護3	7	要介護4	4
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 80 歳	最低 63 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院・すこやか歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「家庭的な環境」という概念を盛り込んだ理念を全職員で話し合い作成するとともに職員の名札に理念を貼り、理念の共有と実践に取り組んでいる。職員オリジナルのきらめき体操やブローチ作り、ギター演奏、指編み、ハンドベルなど数多くのレクリエーションを取り入れ、心身のリフレッシュや生活に張りをもたせる支援をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を基に管理者は職員と話し合い、運営推進会議を2ヶ月に1回開催するなど改善している。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 運営者は自己評価の意義や目的を理解するまでには至っておらず、話し合いなどの場に参加していない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は利用者や家族等の代表、市職員、民生委員などで2ヶ月に1回開催している。 会議の議事録を利用者の家族等に送付している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ノートの片面を面会簿とし、片面は意見や苦情ノートとしてユニットごとに設置しているが、家族等から意見を十分に汲みあげるまでには至っていない。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し地区の敬老会に利用者が制作した装飾品を出展したり、夏祭りに御仮家の場としてホームを開放してお茶を振舞うなど地域の人々と交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価後「家庭的な環境」という概念を盛り込んだ理念を全職員で話し合い作成している。	○	重要事項説明書の理念は古いままなので新しい理念にすることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や各ユニットに理念を掲示するとともに、職員の名札に理念を貼ったり、職員会議や支援の場など折に触れ理念の意義を確認するなど理念の共有とケアの実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地区の敬老会に利用者が制作した装飾品を出展したり、夏祭りに御仮家の場としてホームを開放してお茶を振舞うなど地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は前回の評価結果を基に職員と話し合い改善に努めている。 運営者は自己評価の意義や目的を理解するまでには至っておらず、話し合いなどの場に参加していない。	○	運営者は自己評価や外部評価の意義を理解するとともに、外部評価結果をサービスの質の向上に活かすことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市職員、民生委員などで2ヶ月に1回開催している。 会議の議事録を利用者の家族等に送付している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議だけではなく月に1度相談員を受け入れて疑問点を聞くなど、市の担当者と連携してサービスの質の向上に努めているが介護保険課以外とは連携していない。	○	市教育委員会や生涯学習課、保健師、栄養士などと関係づくりを積極的に行い、ホームの運営やサービスの質の向上に活かす取り組みを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況の変化に応じ随時電話で家族等に報告するとともに2ヶ月に1回「きらめき新聞」を発行し、利用者の暮らしぶりや職員の異動などを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ノートの片面を面会簿とし、片面は意見や苦情ノートとしてユニットごとに設置しているが、家族等から意見を十分に汲みあげるまでには至っていない。	○	直接意見を言い出しにくい家族等に配慮し、無記名のアンケートを実施するなど工夫することを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	派遣の介護職員が多く利用者と馴染みの関係を築くまでには至っていない。	○	利用者が馴染みの職員から支援が受けられる体制づくりや職員配置を期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成計画は作成しておらず、職員が個人的に外部研修を受講している。	○	運営者は職員育成の重要性を認識し、年度ごとに職員の段階に応じた研修計画を作成し実施するとともに、職員が意欲をもって仕事に取り組めるよう環境を整えることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会やケアマネジャー協議会に管理者や職員が出席している。 出席者は復命書を作成し、全職員に回覧して内容を共有するとともにサービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用者や家族等にホームを見学してもらっている。 急な利用開始の場合でも管理者が事前に自宅や施設を訪れて面談を行い、十分な話し合いを行うとともに納得のうえ利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に生活するなかで、利用者から生活の知恵や工夫などを教わったり励まされたり、共に支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は家族等からの情報収集のほか、利用者との会話や表情、行動等から思いや意向の把握に努めている。 また、毎月相談員を受け入れ利用者の声が聞けるよう働きかけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族等と話し合うとともに職員の意見や行政の助言を反映して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に応じた介護計画の見直しのほか、毎月モニタリングを実施しアセスメントを行うとともに6ヶ月ごとに介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や行政への事務代行など利用者や家族等の要望にそって支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の安定した健康状態を維持するため、24時間連携のとれる医療機関を確保するとともに定期的な往診や健診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する同意書やマニュアルを作成するとともにかかりつけ医とも話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳を重視した対応を心がけているが、食事時のトイレ誘導の言葉かけや排泄支援時のドアの開閉など十分に対応するまでには至っていない。 個人記録は事務室で一元的に管理し情報の漏洩防止に努めている。	○	トイレ誘導や排泄支援時など利用者一人ひとりに配慮した言葉かけに取り組むことを期待する。 面会簿と意見ノートは一人1枚にするなど個別に作成し、事務所に保管することを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れは決っているが、利用者の体調やその時の気持ちなどに配慮するとともに希望にそった個別性のある対応をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みにあった献立作りを心がけている。 利用者は職員と一緒に自前のエプロンをかけ食事の下ごしらえをしたり、下膳や後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日や時間帯は決まっているが、利用者の希望や体調に応じてシャワー浴など柔軟に対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活習慣や得意分野での場面づくりをするほか、ギターの演奏会を毎月行ったり、2ヶ月に1回大正琴やフラダンスなどを開催したり、ブローチ作りなど楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は中庭で外気浴を楽しんだり近くの公園に散歩に行くなどの支援をしている。	○	公用車や社会資源を活用し、利用者の希望にそった外出ができる支援に取り組むことを期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関と奥の廊下のみ施錠している。	○	鍵をかけることの弊害を理解し、日中鍵をかけないで済むよう職員で話し合うとともに工夫することを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導のもと避難訓練を実施しているが、地域の人々と共同で実施するまでには至っていない。	○	自治会や運営推進会議などで地域の人々に協力を働きかけ、合同の避難訓練を実施することを期待する。 今後は、夜間を想定した避難訓練を計画することも期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他の施設の献立を参考に1日食事は1500kcal、水分は1200ccを目安に利用者の状態に配慮して食事等を提供している。	○	摂取カロリーについて栄養士にアドバイスを受けることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に利用者の作品や生花、観葉植物を置き生活の中に季節感を取り入れるなど利用者が寛げる共用空間づくりに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室や泊まりの部屋は、利用者や家族と相談し、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等と相談して使い慣れた家具や仏壇、箆笥などを持ち込んでいる。 フローリングに畳を敷き利用者が過ごしやすいう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。